

【一神教研究】

一神教とその世界を学ぶ

グローバル社会における平和構築のために

授業担当者：小原 克博

同志社大学 神学部・神学研究科 教授

同志社大学 一神教学際研究センター (CISMOR) センター長

☎ CISMOR <http://www.cismor.jp>

京都・宗教系大学院連合 (K-GURS) 議長

☎ K-GURS <http://www.kgurs.jp>

授業担当者：小原 克博

専門はキリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究

先端医療、環境問題、性差別などをめぐる倫理的課題や、宗教と政治の関係、および、一神教に焦点を当てた文明論、戦争論に取り組んでいます。著書に『宗教のポリティクス—日本社会と一神教世界の邂逅』（晃洋書房）、『神のドラマトゥルギー—自然・宗教・歴史・身体を舞台として』（教文館）、『原理主義から世界の動きが見える—キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』（共著、PHP研究所）『キリスト教と現代—終末思想の歴史的展開』（共著、世界思想社）などがある。

講義概要 (シラバスより)

この授業では、一神教の歴史や教義、一神教が影響力を及ぼしている世界の様子を知ることによって、グローバル社会における平和構築の手がかりを考察することを目的とします。

「一神教」という言葉は、わが国ではしばしば「多神教」の対語として用いられてきましたが、その場合の一神教とは、ひとまとめにされたユダヤ教・キリスト教・イスラームであり、それぞれの差異や実態はほとんど考慮されずに、もっぱら否定的なイメージを与えられてきました。その傾向は、9.11同時多発テロ事件（2001年）以降、いっそう強まってきたと言えるでしょう。戦争やテロを起こしているのは、主に一神教に関係する人々であって、一神教が今日の紛争の元凶となっている、多神教的な価値観こそ世界平和に貢献できるのだ、といった論調です。

確かに、イラク戦争後のイラクやアフガニスタンにおけるテロや紛争、あるいは、いまだ出口の見えないイスラエル・パレスチナ問題などを考えると、一神教が紛争に関係していることは無視できません。ただし、それらを「宗教紛争」として単純化するのは、真の原因から目を背けることとなります。複雑に絡み合った政治と宗教の問題を解きほぐし、一神教世界の現実に少しでも近づいていく努力が求められます。

好む好まずにかかわらず、今日の世界を理解するためには、一神教に対する基礎知識が必要です。約21億人のキリスト教徒、約15億人のイスラーム教徒を合わせると、世界人口の過半数を超えます。世界で二人に一人は一神教徒だということになります。ユダヤ教徒は1400万人を占めるに過ぎませんが、その歴史的影響力は看過できないものがあります。

この授業では、以上のような課題に向き合っていくために、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの歴史的・教義的基礎知識を身につけると共に、現代のグローバルな問題を分析していくために必要な方法論を学んでいきます。また同時に、日本社会と一神教世界をどのように関係づけることができるのかといった課題も取り上げ、私たちが、より現実的な形で平和について語る道を探っていきます。

【重要】 授業用ページ

小原克博 On-Line <http://www.kohara.ac/>

授業用資料は、このサイトの「教育活動」→「講義概要・シラバス」→「一神教研究」にアップします。紙による資料の配布はありません。

事前に授業用資料をダウンロードして、授業に出席してください。

成績評価基準

成績：出席（30%）＋期末試験（70%）

10分以上の遅刻は出席としませんのでご注意ください。交通遅延等、不可避の事情があった場合には証明書を出していただければ考慮いたします。

就職活動等も一定の配慮をしますが、原則的に、事前に証明書等を提出するようにしてください。